

車大手7社 売上高最高

4～6月期 半導体不足が緩和

自動車大手7社の二〇二三年四～六月期連結決算が九日、出そろった。半導体不足の緩和で生産が回復、

為替相場の円安も追い風に、全社の売上高が四～六月期として最高となった。

純利益も全社が前年同期比で増加。一方、電気自動車(EV)の投入が遅れている中国では苦戦が目立った。

九日はホンダが発表した。売上高は20.8%増の四兆六千二百四十九億円、純利益は約二・四倍の三千六百三十億円だった。純利

益も四～六月期で最高。生産回復に伴い米国での販売が好調だった。

最大手のトヨタ自動車は売上高が24.2%増の十兆五千四百六十八億円、純利益が78.0%増の一兆三千

自動車大手7社の
23年4～6月期連結決算

	売上高	純利益
トヨタ	10兆5468 (24.2)	1兆3113 (78.0)
ホンダ	4兆6249 (20.8)	3630 (約2.4倍)
日産	2兆9176 (36.5)	1054 (約2.2倍)
スズキ	1兆2088 (13.7)	670 (15.1)
マツダ	1兆0909 (76.8)	372 (約2.5倍)
スバル	1兆0821 (29.7)	732 (約2.7倍)
三菱自	6357 (20.2)	479 (24.3)

※単位は億円、()内は前年同期比伸び率%

百十三億円でいずれも最高。本業のもつけを示す営業利益は、日本企業で初めて四半期で一兆円を突破した。純利益はホンダの他にSUBARU(スバル)が約二・七倍、マツダは約二・五倍、日産自動車も約二・二倍に急増した。

一方、中国での販売台数を巡っては景気回復の鈍化もあり、日産が二四年三月